

元気

まち物語

2013.9



農事組合法人

うついの里

活気あふれる店内

県道34号線、新下関地区から菊川方面に車を走らせると、左手に「うついの里にここ市場」と書かれた建物があります。入ってみると、「いらっしやいませー」と元気のいい声と優しい笑顔、そして内日地区の特産品が迎えてくれます。

設立したきっかけ

「ここに市場は農事組合法人うついの里が、内日地区の農業者を主体に設立しました。農業従事意欲の減退阻止や高齢化の歯止めにとどまらず活気あふれる地区をつくり上げるため、協議を何度も重ね、地元の方々の力でオープンしました。内日地域の情報発信拠点として地域農産物の生産販売や農山村の技術伝承、情報発信による地産地消の推進などに取り組んでいます。会員は全て内日地区に住んでいる人で現在、101人です。

開店前、会員の皆さんが次々と店に農産物運び込み、あつという間に店内が内日地区の特産品で埋められていきます。これらは全て内日で栽培されたものにこだわっています。午前7時の開店と同時に、トマトを目掛けて走るお客さんや買い物かごいっぱい商品を買っていくお客さんの姿がとても印象的でした。同市場の人気商品は、内日地区の女性が運営する企業組合「内日工房」で作っている弁当や、内日産の米、新鮮野菜。

中でも、弁当は朝9時ごろには売り切れることもあるそうです。店内にはイベント情報も掲載し、年間10件ほどのイベントを実施しています。地区の人たちとの交流、内日地区の暮らしや農村文化の伝承を通じて農山村への理解や活性化を図ることを目的としています。9月初旬から中旬にかけては新米の試食会を開く予定です。

市場を通じて生まれるもの

「ここができて地区の住民との交流が盛んになり、笑顔が生まれ

る場となった。情報交換の場となったことでみんな元気になった。出荷する楽しみができて、張り合いが生まれ、やりがいを持つようになった。そしてお年寄りが若返った」と、代表理事の西田哲男さんの言葉は、どれも元気になる言葉ばかり。今の店が狭いと感ずるようになったため、今後の目標として、店舗拡大を目指して頑張っていきたいと西田さんは意気込みます。

近くを訪れた方は、「うついの里にここ市場」に元気な笑顔と、新鮮な食材を求めて立ち寄ってみてください。

★うついの里にここ市場
場所 下関市大字内日下 944
営業時間 午前7時～午後2時
電話 289-2425

- ①「農事組合法人うついの里」と「ここに市場」の皆さん(前列中央 代表理事の西田哲男さん)
- ②地元で採れた新鮮な野菜
- ③内日工房で作られた大人の弁当
- ④内日産の米
- ⑤開店と同時ににぎわう店内

